

百人一首を書きましよう。

嵐吹く三室の山のもみぢ葉は

竜田の川の錦なりけり

能因法師

寂しさに宿を立ち出でてながむれば

いづくも同じ秋の夕暮

良暹法師

夕されば門田の稲葉おとづれて

蘆のまる屋に秋風ぞ吹く

大納言経信

音に聞く高師の浜のあだ波は

かけじや袖のぬれもこそすれ

祐子内親王家紀伊

【現代語訳】

烈しい嵐が吹き散らした三室山の紅葉は、やがて竜田川に流れ入って川面は錦のように美しいことよ。

【現代語訳】

あまりの寂しさに耐えかねて庵を出てあたりを見渡すと、どこも同じように寂しい、秋の夕暮れである。

【現代語訳】

夕方になると門前の田の稲葉をそよそよと音をさせて、蘆葺きの田舎家に秋風が吹いてくる。

【現代語訳】

噂に名高い高師の浜の、いたずらに立つ浪のように浮気者で有名なあなたのお言葉は心にかけますまい。うっかり心にかけては、涙で袖を濡らすことにもなりましたようか。